

遊びの場に於ける子供の氣持

西 田 彦 雄

この小論は S. Stosberg (獨) の「遊びの場と眞剣の場に於ける代償の力學に就いて」の追證で、帝大心理科二年の特殊演習の實驗報告である。

被験者 東京女子高等師範學校附屬幼稚園園兒

實驗時日 自昭和十年十一月二十一日至昭和十一年三月

十二日

實驗をなすに當り、始終御懇篤な御指導を賜つた倉橋、千輪、相良、及び附屬幼稚園の諸先生方に深謝の意を表します。又被験者の方々にも衷心より感謝致します。

序。子供が、眞剣な場と又は、遊びの場に居る事によつて、代償物を與へた場合、行動に何等かの相異がありそうに思へる。又子供の精神發達の程度(年齢)によつても、本質的な相異が代償に對する行動に現はれそうである。こゝうした子供の行動を觀察し、それを手掛りとして子供の

世界の何等かの解明の道が拓かれなだらうかを考へる。

實驗 I 眞剣な場 (Ernstsituation)

——發達した場 (Entwickelsituation)

發達した場は次の如く未發達の場と對するものである。チヨコレートをあげませうかと言ふのみで實際は喰べさせない場合よりも、實際にチヨコレートを喰べる方が、子供に於て、より強い現實性を持つてゐるを考へられる。それ故チヨコレートを實際に喰べ、現實性の強い場面を發達した場と稱ぶ。

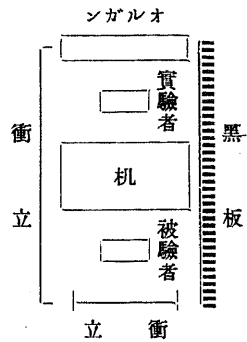
a 實驗方法

もこの物——チヨコレート

代償物——チヨコレートに畫用紙を巻いて焦茶色の

色鉛筆で塗つたもの。かなり、もこの

物と似てゐるらしい。



実験者と被験者

シは机を隔て、對座する。被験者の氣持を出来る限り自由にしようとする。努力する。

果物、菓子等の好悪を尋ねて遂に、「チヨコレートはお好きですか」を問ひ、『好きです』を答へた場合にのみ實驗を行ふ。

チヨコレートを與へ、子供が少し喰べ始めた時に、「そのチヨコレートを机の上に置いて下さい。代りのをあげますから。」と言つてチヨコレートを机の上に置いて貰ひ、チヨコレートのはいつてゐる同じ袋から代償物を取り出して與へる。

b 實驗結果

①全拒絶——紙のチヨコレートを厭だと言つて机の上

へ置か、黙つてじつと持つてゐる場合である。即ち代償物が代償として取扱は

れない場合である。

例。伸子さん(五年十ヶ月)

代償物を袋から取出して手渡し、すぐ勢よく机の上に放り出して、『チヨコレートぢやありませんよ。紙ですよ。』と言ふ。「どうして？」を問ふと、「字が書いてないから。」を答へる。

實驗者がチヨコレートのはいつてゐる同じ袋から取出した事、實驗者がチヨコレートですと言つて手渡した事、今まで本當のチヨコレートを喰べてゐたので未だ喰べたいといふ氣持が残つてゐる事、代償物がチヨコレートにかなり似てゐる事、實驗者と被験者の間には何程かの信頼關係が存する事等、以上の様な條件が相寄つて渡された代償物が、チヨコレートであらうといふ心構へが出来てゐるであらうと思へる。そうした心構へに抗つて、紙のチヨコレートだを觀破し得るのは、精神發達程度の高い人々か、又はチヨコレートに強い執著を持ち續けた人々であらう。

兎も角、全拒絶の行動は明瞭に現實面に於ける出來事である。

大きい子供(平均六年二月)

40%

小さい子供(平均五年二月)

10%

②厚紙としての取扱ひ

チヨコレートとしては拒絶されたのであるが、厚紙として取扱はれる事によつて代償物は何程かの代償性を得るのである。

例。シゲヨさん(五年六月)

代償物を手渡すヨ「お家へもつて歸るヨ言ふ。」「それは喰べられますかヨ」問ふヨ、「喰べられないヨ」言ふ。」「どうしてヨ」尋ねるヨ「紙でこしらへてあるからヨ」答へる。」「中には？」ヨ言ふヨ「解らないヨ」言ふ。」「最初あなたにあげた時チヨコレートだヨ思ひましたか？」「いゝえ」「ではさうしてお家へもつて歸るヨ言つたのですか」「玩具にしようヨ思つて。」「ヨ言ふ。

チヨコレートを喰べるヨいふ事は諦めて、代償物を何等かの意味で認めやうとする行動である。この場合も代償物をチヨコレートに見做さない點では全拒絶ヨ同様であるが、その拒絶の程度が弱いのである。子供はこの場合も尙

現實面に留つてゐるヨ考へられる。

大きい子供

0%

小さい子供

20%

③試みにチヨコレートとして受取る。

與へられた代償物がチヨコレートだヨ思つてゐる又は思はうヨ欲する場合である。前者は與へられた代償物その物がチヨコレートだヨ思ふのであつて、口の中へ入れて噛む様な事が起る。後者は畫用紙の中にチヨコレートがはいつてゐるヨ想像する場合で、畫用紙を剥がうヨする。

この場面は①②に比して何程か現實性の低い想像の世界であるヨ言へる。そしてこの場面に屬するのは、現實ヨ非現實ヨの分化度の低い人達ヨ共に、分化度が高く容易に想像の世界に移り得る人達ヨであらう。前者は口の中へ入れて噛む様な行動ヨなり、後者は剥がうヨする行動ヨなるのである。

例。瑛士君(五年九月)

代償物を手渡すヨ、「これ何だ」ヨ言ひながら噛む。」「堅

いい。』と言ふが尙嘯む。今度は折らうとするが折れない。又嘯む。こうした事を二度も四度も繰返へすが遂には紙を剥ぎ始める。

千津子さん(六年七月)

代償物を手渡すこすぐ紙を剥ぎ始めるので止める。するこ折つてみる。『軟かい』と言ふ。『チヨコレートがはいつてるかしら』と言ひながら首をかしげる。

大きい子供——50%(0%)

50%

口の中へ入れた者。剥がうこした者。

小さい子供——70%(50%)

20%

④後で何かにしようこ思つて自ら慰む。

例。幸太郎君(六年六月)

代償物を與へるこ「何だチヨコレートではない」言ふ。「チヨコレートだよ」言ふこ、「そうだ。貰つてくよ」言つてポケットに入れ椅子から立ち上つて出て行くこするが、立ち留つて實驗者を見てゐる。椅子に腰掛けさす。「さうしてチヨコレートだ？」問ふこ「茶色だから」そして「チヨコレートの皮だ」言ふ。

この場合も同様現實程度の低い場面であらう。想像の世界において慾望の満足を見出さうこするのである。

大きい子供——10%

小さい子供——0%

實驗Ⅱ。眞剣な場——未發達の場。

(Unentwickeltesituation)

a 實驗方法。

實驗Ⅰと同様であるがチヨコレートを實際には喰べさせないで、「チヨコレート」をあげませうか「このみ言つて、代償物を與へるのである。

b 實驗結果。

①全拒絶。

實際にチヨコレートは喰べてゐないのであるからチヨコレートの現實性は低いであらう。それ故チヨコレートを喰べる場面から出て、容易に代償物を代償して取扱ふ場面へ移るであらうこ想像される。従つて代償物を拒絶する様な事は稀であらう。

大きい子供——20% (實驗I) 40%
 小さい子供——18% 10%

②厚紙としての取扱ひ。

大きい子供——13%
 小さい子供——9%

③試みにチヨコレートとして受取る。

大きい子供——60% (口の中へ入れた者) 13%
 剥がうとした者——47%

小さい子供——73% (口の中へ入れた者) 64%
 剥がうとした者——9%

實驗I、IIの場合共通に小さい子供は代償物を口へ入れて何度も何度も噛んで噛み破る程であるのは實に印象的で見ている者の心を痛ましめるのである。

④チヨコレートと呼びながら厚紙として取扱ふ。

例。福郎君(六年七月)

代償物をじつと見てゐる。「チヨコレートだらう」と言ふさうなづく。「チヨコレートですか?」と言ふ。「さうだ」と言ふ。「喰べられますか?」を問ふ。「喰べられない。

玩具たもの』と答へる。そして『皮をむけば喰べられる』中には何がはいつてゐますか?』知らぬ』と矛盾する。

『チヨコレートだ』と言ふのは現實に於ける出來事であらう。併し同時にチヨコレートであつて欲しいさいつた欲望の世界も窺へるのである。現實と非現實とが模糊として搖らいでゐるのであらう。

大きい子供——70% 小さい子供——0%

實驗II 眞剣な場——未發達の場

實驗IIに於いては、大きい子供と小さい子供との相違が明瞭でないが、これは本質的に明瞭でないのか、チヨコレートの代りに鉄を用ひて實驗をした。

a 實驗方法。

もこの物——鉄

代償物——厚紙の鉄

被験者の氣持を自由にして置いて、色紙を渡し、「これで花でも模様でも何でもよいのですが、切つて呉れますか?」と頼み、「切りませう」と被験者が言つたなら、代償物の鉄を出して被験者に手渡す。

b 實驗結果。

①全拒絶。——大きい子供85% 小さい子供100%

例。鳩子さん(六年三月)

代償物の厚紙の鋏を手渡さうとするが手にとらないので、机の上に置く。じつこ眺めてゐるのみで手に取らない。色紙を折るのに妙に苦勞する。一枚目のを蠟苦茶にする。二枚目も辛うじて折つて「手で切つてみてよいか」
と言ふので「よろしい」言ふ。「二枚目のをこの鋏(厚紙)で切つて下さい」言ふが黙つてゐる。「この鋏では切れないの?」尋ねると「さうだ」さうなつく。本當の鋏を取出して渡す。「これなら切れる」さう紙を折つて切る。

伸子さん(六年一月)

厚紙の鋏を手渡す。「紙ですよ。切れません」言つて勢よく机の上へ放り出す。他の人達は一枚か二枚切れば止めたのであつたが、伸子さんは六枚も「折つてもいゝ?」問ねては折つたり切つたりした。
意志の問題に關聯がありさうである。

②試みに代償さして受取る。

大きい子供85% 小さい子供90%

切れるかも知れないと思つてゐるらしい。大きい子供は切れぬ事が解るさう止めるが、小さい子供は何度も何度も切つてみる。さうしても切れないのだといふ事になか／＼解らないのである。これはチヨコレートの場合の口の中へ入れて噛むのと同様な行動形式であらう。何度も何度も切らうと試みた場合は大きい子供100%に對して小さい子供は90%である。

例。信子さん(六年七月)

切らうとするが切れない。實驗者の顔を見て「切れない」大きな聲で言つたかと思ふ。色紙も鋏も机の上へ投り出してしまつた。「何故切れないの?」問ふと「ボール紙だから」言ふ。

珠子さん(五年)

何度も何度も切らうと努力するが切れない。又何度も何度も切らうとするが切れない。遂に「切れません」言つて机の上に置く。「さうして切れないの?」問ふと「解らぬ」答へる。(未完)

真 剣 な 場

實 験 種 類	被 験 者 数	年 齢	對 象 物					も 同 じ の 取 扱 と ひ
			全 拒 絶	厚 取 扱 と は じ れ て る	試 飲 に 代 換 せ る	チ ョ と コ レ ッ プ	後 で 何 か ら 懸 ぶ	
I チ ョ コ レ ッ プ (發 達 じ た 場)	10	*4;10-5;9 平 均 5;2	※10	20	70	0	0	0
	10	5;10-6;7 平 均 6;2	40	0	50	0	10	0
	平 均	5; 8	25	10	60	0	5	0
II チ ョ コ レ ッ プ (未 發 達 の 場)	11	5; 0-5;9 平 均 5;5	18	9	73	0	0	0
	15	5; 8-6;9 平 均 6;3	20	13	60	7	0	0
	平 均	5;11	19	11	68	3	0	0
II 鏡 (未 發 達 の 場)	10	5; 0-5;8 平 均 5;5	10	0	90	0	0	0
	11	5;11-6;9 平 均 6;4	45	0	55	0	0	0
	平 均	5;10	21	0	73	0	0	0

* 4;10 は 4 年 10 月 5;9 は 5 年 9 月 以 下 に 準 ず ※ 10, 20, 等 の 数 字 は 凡 て % が 略 さ れ て お る の で あ る